

【重要なお知らせ】 必ずお読みください。

日本生殖医学会より 4 月 1 日に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する声明が発表されました。その内容は以下の通りです。

- 現時点において、COVID-19 が妊娠、胎児に及ぼす影響は明らかになっていないこと
- 妊婦における COVID-19 の感染リスクが高いとはいえないこと
- 一方で、妊婦において COVID-19 感染の重症化の可能性があること
- 感染時に使用される治療薬として妊婦に禁忌の薬剤による治療が試行されていること
- 不妊治療による妊娠が成立した後の COVID-19 感染への対応に苦慮することが予想されること
- 国内での COVID-19 感染の急速な拡大の危険性がなくなるまで、あるいは妊娠時に使用できる COVID-19 予防薬や治療薬が開発されるまでを目安として、不妊治療の延期を選択肢として患者さんに提示していただくよう推奨すること
- 既に調節卵巣刺激を開始し採卵を予定している患者さんについては、胚凍結の上で上記の状況を踏まえて胚移植時期を検討すること
- 胚移植を予定している患者さんについても同様の検討をすること
- 人工授精、体外受精・胚移植、生殖外科手術などの治療に関しては、延期が可能なものについては延期を考慮すること

この声明を受け、当院としての方針は以下のとおりです。

不妊治療は、年齢が大きな問題であり年齢的に時間的猶予の少ない方、1 周期も無駄にしたくない方、さまざまな理由を抱えて治療を急いでいる方など、たくさんいらっしゃると思います。

そのことを考慮し、当院では個々の患者さんの状態を十分に検討し、ご相談の上で、治療を行ってまいります。

また受精卵(胚)凍結は、採卵した際の年齢が少しでも若ければ、胚移植すなわち妊娠を延期しても妊娠率は下がることはありません。現在の社会状況から考えると、採卵後は胚を一旦凍結保存し、時期を見てから融解胚移植を行うということも選択の一つかと思われます。

いろいろと迷われ、戸惑うことも多いかと思いますが、しっかりと個別に相談しながら治療を進めてまいりますのでご安心ください。

2020 年 4 月 2 日

園田桃代 ART クリニック 院長 園田桃代